

令和5年度別府市人権教育学級 第5回学習会

日時：令和5年10月12日(木) 10:00~11:50

場所：別府市役所 5F 大会議室

テーマ：医療をめぐる問題

医療と人権

～患者になった時、患者の家族になった時、最善の選択ができるために～

講師：別府市医師会立別府青山看護学校

専任教員 小林 恭子 さん

講演概要

プロフィール

- ・看護師として病院勤務ののち別府市医師会立青山看護学校の専任教員として、日々看護師をめざす学生たちの指導に当たっている。



<講師の小林恭子さん>

別府市医師会立別府青山看護学校の紹介

- ・学校の概要（場所、三年制、学習の様子など）
 - ・戴帽式（ナイチンゲール誓詞）
- ※お子さんの進路選択にも役立ててほしい

1 はじめに

◇正しい知識をもつことの大切さ

医療をめぐる人権問題は「香害」や「脱毛」を含めてさまざまある。差別や人権侵害を起こさないためには正しい知識をもつことが重要である。

◇誕生日ワークショップの実施



受講者みんなで、黙って移動して誕生日順の大きな一つの円（バースデーライン）を作る。実施の目的は、「自分はその時どう行動するかを言葉がなくても伝えよう・理解しよう」を体感すること

2 患者の権利

リスボン宣言（1981年採択）・・・患者の権利を保障するもの。

◇良質の医療を受ける権利 ◇選択の自由の権利 ◇自己決定の権利 など

(1) インフォームド・コンセント（IC） **説明と同意**

患者が、医師から十分な説明を受けて、ある程度リスクがあることを理解した上で判断し受けたい医療を自分の意思で選択し同意することによって、医師は、その治療を合法的に行うことができるという法理

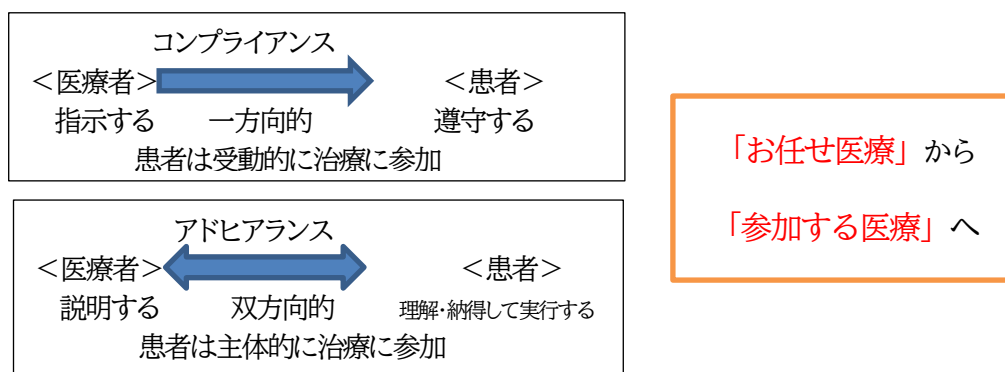
(2) セカンドオピニオン

最初に決定され、あるいは現在継続されている診断・治療方針に対する意見・評価を別の医師や医療機関に求めること

〈セカンドオピニオンでの留意点〉

- ・しっかりと主治医の説明を理解する。
- ・ドクターショッピングをしない。自由診療なので、費用がかかるとともに治療が遅れることがある。

(3) 「コンプライアンス」と「アドヒアランス」



「アドヒアランス」とは、患者が医療者によって推奨された療養法を理解し、それに同意した上で実施すること。病気の管理には本人の主体性が重要。

3 医療の現場で守られるべき子どもの権利

(1) 子どもは病気のことをどのように理解しているか

- 2歳以前: 病気や治療のことを理解するのは難しい
- 2歳～6歳: 自分が目にしたものや痛みなどの感覚が真実であり、見えないものについてはまだ考えることはできない。苦痛を伴う治療や親と離れて入院することを自分の罰と捉え、深く傷ついていることがある。
- 7歳～10歳: 自分の経験の範囲内で論理的思考ができるようになるため、健康に悪いことをすると、その影響で病気になったことを理解できるようになる。
- 11歳～: 経験のないことでも抽象的な理解が可能となるため、成人とほぼ同様な病気や病名、病院等の認知ができる。

(2) インフォームド・アセント

子どもに対してこれから実施する治療などについて、子どもが理解しうる内容や方法で説明し、子どもの納得を得ること。

病気であるのは子ども自身、病気とともに生きていくのは子ども自身である。だからこそ、子どもに「話す」ことが前提で、「話す」ためにどうしていくかを考える。(「いつ、だれが、どこで、何をどのようにどこまで伝えるか」を考える)

4 人生最期のときの意思決定を考える

(1) アドバンス・ケア・プランニング

今後の治療・療養について患者・家族と医療従事者があらかじめ話し合う自発的なプロセスのこと⇒大切にしていることや望み、どのような医療やケアを望んでいるかについて、自ら考え、また、あなたの信頼している人たちと話し合うことが大切である。

大分県ホームページ“人生会議”より

Step ①治療を受ける際、あなたが大切にしたいことは何ですか？

②あなたが思いを託せる人は誰ですか？

③かかりつけ医師に相談しましょう

④話し合って共有しましょう

⑤人生会議記録シートに書き留めましょう

人生会議は、1回で済ませず、
家族で話すこと

(2) 事前指示書(リビングウィル)

意思決定の能力のあるうちに、例えば、自分の終末期医療の内容について過剰な延命措置をとってほしくない、などの希望を託しておくこと

(3) POLST(ポルスト) (Physician Orders for Life-Sustaining Treatment)

重篤な状態の患者らの意思確認のうえで、最終段階の医療・ケア全般に関する医師の指示文書→主治医とよく話し合って自分の終末期医療の希望を病院の医師に託しておくことが大切である

(4) エンディングノート

人生の最終章を迎えるにあたり、自分の思いや希望を家族などに自由に伝えるためのノート

5 まとめ

病気の管理には本人の**主体性**が重要。**理解して、納得して、実行すること。**

人生の最期をどのように選択するかを考えることは、「人生の最期をどのように選択するか」を考えることは、「人生の最期を迎えるまでに、どのように生きるか」を考えること

6 終わりに

患者になった時、患者の家族になった時、最善の選択ができるために必要なのは、悔いのない意志決定ができるよう、お互いを尊重し、日頃から、話し合い、準備をすることが大切。

講座の中で、学習場面ごとにグループワークを2回行いました。2つの医療場面で登場するそれぞれの人物の気持ちを考え、「自分だったらどうするか」について話し合いました。学習に入る前のグループワークで、受講者の皆さんもより自分の問題として捉えることができました。



グループワークで活発な話し合い

〈グループ対話〉



自己紹介から始まり、感想や学んだこと、それぞれの状況、今後の活かし方など、各グループとも活発な話し合いが行われました。

〈感想〉

- ・グループディスカッションで他の方の体験談などを聞く機会があったので良かったです。
- ・いろいろな方とお話できてよかったです。

◇学習会を終えて

学習会後のアンケートでは、「大変学べた」「これからの生き方を考えるよい機会だった」「子どもにも医療の人権があることを知った」「今まであまり考えて来なかったことを改めて考えることができた」「家族で話し合いたい」「周りに伝えていきたい」など、大きな学びになったことはもちろん、これからの行動と結びつけた感想が多く寄せられました。

アンケートの結果については、今後活かしていきます。